

せ い

「所為」と「おかげさま」

「所為」この漢字を見たことがありますか？この漢字は「せい」と読みます。「人のせいにする」の「せい」ですね。子どもだけでなく大人ですが、人間は結構わがままで、自分に原因があつて謝れずむ事でも、自分の悪かったことは棚に上げて、ついこの「所為」を使ってしまっている人も多いのではないのでしょうか。

先日、遅刻をしてきた生徒に「今日はなぜ遅刻をしたの」とたずねたところ、「親が起こしてくれなかった」「目覚ましをセットしたのに鳴らなかった」だから「起こしてくれなかった親が悪い」「鳴らなかった目覚し時計が悪い」と言いました。

自分のことは棚に上げて、遅刻した理由を「親のせい」「目覚し時計のせい」にしてしまっているわけですね。みなさんも似たようなことをした経験がないのでしょうか？

では、なぜ人は「人のせい」にしてしまうのでしょうか。私自身も反省することがよくありますが、人のせいにしてしまった方が気が楽だという自分への甘えがそうさせているのかもしれない。

しかし、いつでも自分のことは棚に上げて、他人のせいにはばかりしていると、あの人はあの子は本当にいつもわがままで、信用できない人と思われるようになってしまいます。

いつも「人のせい」にはばかりしないで、自分のあやまちには自分に原因があることを素直に認め、「自分に厳しく、他人にやさしい人」になってほしいと思います。

先日、ある本を読んでいたら「おかげさま」という詩を目にしました。その詩の一部分をみなさんに紹介したいと思います。

「おかげさま」

夏が来ると「冬がいい」という 冬が来ると「夏がいい」という
太ると「痩せたい」といい 痩せると「太りたい」という
忙しいと「暇になりたい」といい 暇になると「忙しい方がいい」という

衣食住は昔に比べりゃ天国だが 上を見ては不平不満の明け暮れ
隣を見ては愚痴ばかり

どうして自分を見つめないのか 静かに考えてみるがよい
一体自分とは何なのか

友達のおかげ 親のおかげ 世間様のおかげの固まりが自分ではないか
つまらぬわがまを捨てて 自分勝手に慎んだら
世の中はきっと明るくなるだろう
「俺が、俺が」を捨てて
「おかげさま、おかげさま」で暮らしたい

土曜日の運動会は、生徒全員が全力を尽くして、素晴らしい競技・演技をしてくれました。向中が一体となり、感動的な運動会になったと思います。また、約500名という大勢の来賓や保護者の方々が見学にきてくれました。このこともたくさんの大人が向中に関心を持って皆さんを支えてくれているんだなと強く感じました。まさしく今日お話した「おかげさま」の心を忘れないでください。この後、3年生は修学旅行、2年生は職場体験、そして1年生は野外体験という学年ごとの行事もあります。一つ一つの行事を通して心身ともに成長してほしいと願っています。

最後に今日から運動会でみせてくれた頑張りを勉強にも振り向けてほしいと思います。今、先生方は、皆さんの学力を高めるために、教室や廊下の学習環境を整えたり、放課後の学習教室を実施したり、わかりやすく教えるための研究をしています。1時間1時間の授業を大切にしてください。期待しています。